

Working Paper. No. 08-01

異なる収入源による配分選好の検証

—中国の内モンゴル自治区の農家のアンケート調査をもとに—

2009年2月

山口大学大学院 東アジア研究科

王 秀紅

異なる収入源による配分選好の検証

—中国の内モンゴル自治区の農家のアンケート調査をもとに—

はじめに

宝くじ当選で莫大なお金を手に入れたため、転落人生となってしまうことがある。その理由の 1 つには、宝くじ当選したお金は働くことによって獲得したお金と同じものと見なせず、多額の消費やばらまきをする等の傾向があるからである。このように、全く同じお金でも、収入源が異なると、違う扱いをするということは家計の中でよく見られる行動パターンである。例えば、意外な収入は他の収入と比べて早く使い切ってしまう傾向がある¹。その他、臨時的な収入またボーナスは心の中で給料などの正規収入と違う勘定で扱い、給料より貯蓄に用いやすい傾向があるということは幾つの研究によって指摘されている²。

Thaler(1985)は、人間が入手した方法によってお金に色をつけて、それぞれを特定な使用方法に当てはめる傾向をメンタル・アカウンティングと定義した。

李(2005)は中国の都市住民における調査を行い、都市住民は同じ 2,000 元³の収入に対し、異なる収入源によって異なる使用方法を用いる傾向があると指摘した。李(2005)は 3 つの収入源を設定した。それは給料、ボーナス、意外な収入である。それぞれの収入源に対し、次のような異なる選好順位が見られた。

- ① 給料に対して、配分選好の順位は日常生活、預貯金、生活の改善、交際費、投資、旅行、旅行・贅沢品である。
- ② ボーナスに対して、配分選好の順位は預貯金、交際費、生活の改善、日常生活、旅行・贅沢品の購入、投資である
- ③ 意外な収入に対して、配分選好の順位は交際費、預貯金、旅行・贅沢品の購入、投資、日常生活である。

つまり、中国の都市住民にはメンタル・アカウンティングが存在している。

中国の人口の 7 割は農民である。都市と農村の経済格差が大きく、生活パターンも異なっている。農家の配分選好は都市住民と異なるパターンが見られる可能性がある。本稿の目的は、研究があまりなされていない農村地域で調査を行い、中国の農家には異なる収入源から得た収入に対し、配分選好が異なっているかどうかを検証する。異なるのであれば、農家にもメンタル・アカウンティングが存在していることが確認できる。さらに、意思決定者、子供の数、親との同居状態、世帯年平均収入、学歴という 5 つの要素が農家の収入の配分選好に影響しているかどうかを検証する。

¹ Arkes and Joyner etc(1994), Shron and Mason(1995), 李(2005)を挙げられる。

² Graham and Isaac (2002), 李(2005)などがある。

³ 元は中国の通貨単位であり、1 元は約 13 円に相当する。(2009 年 1 月 28 日現在)

第1節 調査内容と研究方法

調査は中国の内モンゴル自治区東部にある巴林右旗⁴という地域を対象として行った。本節では調査地域、調査対象の特徴、調査内容と研究方法を紹介する。

1.1 調査地域

巴林右旗の面積は 10,221 平方キロメートルであり、16 の蘇木、郷、鎮⁵、159 の村が存在している。人口は約 18 万人で、そのうち農業人口は 7 割以上を占めている。農業と畜産業が主な産業となっている。農家 1 人あたりの年平均可処分所得は 2,441 元であり、内モンゴル全地域における農家の年平均可処分所得 (2,606.37 元) より 155 元低い⁶。なお、調査は 2007 年 11 月から 12 月に 2 ヶ月間にわたり行った。

1.2 調査対象の特徴

調査は巴林右旗の 26 の村の 523 人に対して行った。有効回収数は 468 である。有効回収率は 89.68% である。

表 1 は調査票に記入した意思決定者、年齢、子供の数、世帯収入、親と同居の有無、教育レベルをまとめたものである。数字は実数と全体に占める割合 (%) である。表 1 から調査対象の属性は次のようにまとめられる。

- ① 意思決定者については、夫、妻、夫婦という 3 つの選択肢を設けた。夫、妻と夫婦の割合はそれぞれ 41.59%、30.39%、28.02% である。実際には夫婦で家計を決定するという家庭も少なくない。それゆえ、夫婦共同で内容を記入できるように調査票を設計した。
- ② 年齢別に見ると、30 代は 259 人で 55.82% を占めている。40 代の 116 人を加えると、30,40 代の人の割合は 8 割以上を占めている。
- ③ 子供の数においては、1 人または 2 人の世帯が 80% 以上を含めている。これは調査対象の年齢が偏っていることと直接関連していると考えられる。
- ④ 収入は多様な層に分散している。
- ⑤ 親との同居の有無では同居していない世帯が多く、62.64% を占めている。
- ⑥ 教育レベルは、小学校と中学校が 77% を占めている。

⁴ 内モンゴル自治区の地域行政区分は次の通りである：盟、市の下で県、旗に区分し、その下は郷、蘇木を設置、そして、郷、蘇木の中で幾つかの村を区分する。巴林右旗は地域行政区分では内モンゴル自治区の赤峰市に属している。

⁵ 鎮は郷、蘇木と同じレベルの行政地域である。

⁶ データは巴林右旗年鑑(2005)と中国統計年鑑(2005)によるものである。

表 1 : 調査対象の属性

意思決定者	夫	193	41.24%
	妻	141	30.13%
	夫婦	130	27.78%
	未記入	4	0.85%
年齢	20代	43	9.19%
	30代	259	55.34%
	40代	116	24.79%
	50代	35	7.48%
	60代	9	1.92%
	70代	2	0.43%
	未記入	4	0.85%
子供の数	0	23	4.91%
	1	186	39.74%
	2	176	37.61%
	3	44	9.40%
	3人以上	9	1.92%
	未記入	30	6.41%
世帯収入 (単位：元)	5,000以下	104	22.22%
	5,000-10,000	149	31.84%
	10,000-20,000	106	22.44%
	20,000-30,000	50	10.90%
	30,000-40,000	20	4.27%
	40,000以上	13	2.78%
	未記入	26	5.56%
親と同居しているか否か	同居している	167	35.68%
	同居していない	280	59.83%
	未記入	21	4.49%
教育のレベル	教育をうけていない	8	1.71%
	小学校	153	32.69%
	中学校	208	44.44%
	高校	75	16.03%
	大学	21	4.49%
	未記入	3	0.64%

合計	468
----	-----

1.3 調査方法

配分選好の違いを検証するために、『異なる3つの収入源で同じ金額の2,000元を獲得したとしたら、それぞれに対して6つの配分方法から、最も使いたい方法を選びなさい』という調査内容を設計した。なお、調査は収入源と配分方法を事前に決め、選択させるという形で行われた。具体的な内容は次の通りである。

3つの収入源：

- ① 農産品の値上げにより獲得した2,000元の収入（以下、農産品値上げと略す）
- ② 宝くじ当選2,000元の収入（以下、宝くじ当選と略す）
- ③ 出稼ぎで稼いだ2,000元の収入（以下、出稼ぎ収入と略す）

6つの配分方法：

- ① 預貯金をする（以下、預貯金と略す）
- ② 交際費に用いる（以下、交際費と略す）
- ③ 他人に貸す（以下、貸出と略す）
- ④ 旅行あるいは贅沢品を買う（以下、旅行・贅沢品と略す）
- ⑤ 家族の生活を改善する（以下、生活の改善と略す）
- ⑥ 日常生活に使う（以下、日常生活と略す）

1.4 分析方法

配分選好を検証するために、2つの異なる視点から分析を行う。まず、3つの収入の配分選好が全体的に異なっているかどうかを検証するために、クロス表の検定を用いる。次に、3つの収入から2つずつ組み合わせて3つのグループを作り、それぞれのグループにおいて、配分方法ごとの選好比率が有意に異なるかどうかを比率の差の検定を用いる。

また、意思決定者などの5つの要素が農家の収入の配分選好に影響するかの検証も比率の差の検定を用いる。

第2節 メンタル・アカウンティングの存在の検証

本節では農産品値上げ、宝くじ当選及び出稼ぎという3つの源泉からの2,000元の収入に対して、配分選好が同じであるかどうかを検証し、その結果から巴林右旗の農家におけるメンタル・アカウンティングが存在するかどうかを判断する。まず、単純集計データを検討し、その後、クロス表の検定と比率の差の検定を用い、配分選好が異なっているかどうかを詳しく検証する。異なっていれば、メンタル・アカウンティングが存在することが確認できる。

2.1 データの集計

表 2 は農産物値上げ、宝くじ当選及び出稼ぎという 3 つの手段で獲得した 2,000 元の配分方法の単純集計である。3 つの収入のそれぞれの選好順位は次の通りである。

- ① 農産物値上げ収入に対し、配分選好の順位は預貯金、日常生活、生活の改善、貸出、交際費、旅行・贅沢品である。
- ② 宝くじ当選収入に対し、配分選好の順位は生活の改善、交際費、日常生活、貸出、預貯金、旅行・贅沢品である。
- ③ 出稼ぎ収入に対し、配分選好の順位は日常生活、預貯金、貸出、生活の改善、交際費、旅行・贅沢品である。

図 1 は 3 つの異なる収入の配分方法の違いを図で表すものである。表 2 と図 1 をまとめると、次の通りである。

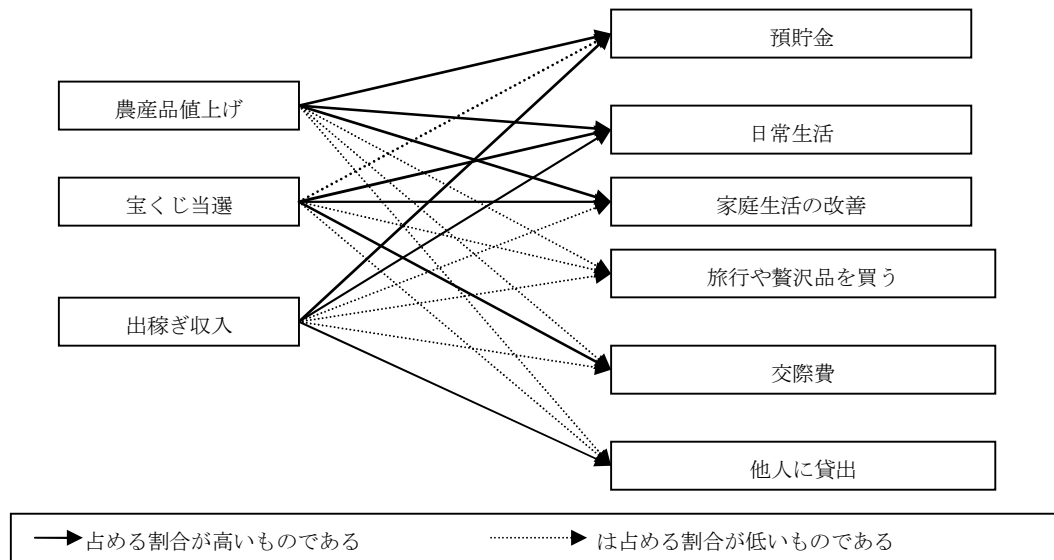
- ① 収入ごとに選択された優先配分項目が異なっている。
- ② どちらの収入に対しても、旅行や贅沢品を買うことを選択した人は最も少ない。
- ③ 農産物値上げと出稼ぎによる収入は日常生活と貯蓄に優先的に用いる傾向が見られる。
- ④ 宝くじ当選収入は交際費に用いやすい傾向が見られる。
- ⑤ 農産物値上げ収入と出稼ぎ収入は預貯金を優先して考えるが、宝くじ当選収入に対しては預貯金という選択を優先して考えない傾向が見られる。

表 2：収入による配分方法

収入源	預貯金	交際費	貸出	旅行・贅沢品	生活の改善	日常生活	合計
農産物値上げ	239	14	33	12	69	101	468
	51.07%	2.99%	7.05%	2.56%	14.74%	21.58%	100%
宝くじ当選	48	124	49	46	129	72	468
	10.26%	26.50%	10.47%	9.83%	27.56%	15.38%	100%
出稼ぎ収入	159	14	57	10	56	172	468
	33.97%	2.99%	12.18%	2.14%	11.97%	36.75%	100%

注：統計データの上の列の数字は選択した人数である。%で表示した数字は総人数の中に占める割合である。

図 1：異なる収入の支配方法



2.2 クロス表の検定

次に、農産品値上げ、宝くじ当選、出稼ぎ収入という 3 つの収入の間に配分選好が統計的に異なっているかどうかをクロス表の検定を用いて検証する。

3 つの収入に対する配分選好は違いがあるかどうかに関する検定は、有意水準 5%、有意確率 p 値は 0 に近い (<0.05) ため、3 つの収入に対する配分選好が有意に異なっている。

さらに、3 つの収入から 2 つずつ組み合わせて 3 つのグループを作り、クロス表の検定を用いてそれぞれのグループの配分選好が異なるかどうかを検証する。3 つのグループは表 3 に示したようなものである。表 3 からみると 3 つの収入の 2 つずつの組み合わせにおいても、配分選好はすべて有意に異なっていることは分かる。

表 3：収入源によって 2 つ毎にクロス表の検定の結果

	X ²	P 値
農産品値上げと宝くじ当選	260.9	0.0000*
農産品値上げと出稼ぎ収入	42.48	0.0000*
宝くじ当選と出稼ぎ収入	240.7	0.0000*

* 5%水準で有意

2.3 比率の差の検定

配分方法ごとの比率の違いが統計的に有意であるかどうかを比率の差の検定を用いて検証する。農産品値上げ、宝くじ当選、出稼ぎ収入の 3 つの収入から 2 つずつ組み合わせて 3 つのグループを作り、それぞれのグループで配分方法毎に配分選好が異なっているかどうか

かを検証する。

表 4 は配分方法ごとの比率検定結果を表している。農産品値上げと出稼ぎという 2 つの収入源には、預貯金、貸出、日常生活という 3 つの配分方法の選好比率は統計的に有意である。農産品値上げ収入と宝くじ当選収入に対する配分選好は預貯金、交際費、旅行・贅沢品、生活の改善、日常生活の 5 つの配分方法の選好比率が統計的に有意に異なっていること。また、出稼ぎ収入と宝くじ当選収入に対する配分選好も、貸出という配分方法を除き、他の 5 つの配分方法、つまり、預貯金、交際費、旅行・贅沢品、生活の改善、日常生活の比率が有意に異なっていることを確認できた。

表 4：配分方法ごとの比率の差の検定結果

	預貯金	交際費	貸出	旅行・贅沢品	生活の改善	日常生活
農産品値上げと出稼ぎ収入	0.1709*	0.0000	-0.0513*	0.0043	0.0278	-0.1517*
農産品値上げと宝くじ当選収入	0.4081*	-0.2350*	-0.0342	-0.0726*	-0.1282*	0.0620*
出稼ぎと宝くじ当選収入	0.2372*	-0.2350*	0.0171	-0.0769*	-0.1560*	0.2137*

* 5%水準で有意

第3節 配分選好の影響要因

第 2 節で、2,000 元の農産品値上げ収入、宝くじ当選収入と出稼ぎ収入に対して、巴林右旗の農家は異なる配分選好を持っていることが明らかになった。つまり、この地域の農家にはメンタル・アカウンティングが存在している。

一般的には、人の消費と貯蓄行動は収入、性別、学歴などに影響される。本節では意思決定者、子供の数、親との同居状態、世帯年平均収入、学歴という 5 つの要素を考慮し、これらの要素が農産品値上げ収入、宝くじ当選収入、出稼ぎ収入の配分選好に影響を与えているかを検証する。なお、検証方法はクロス表の検定を用いる。

3.1 意思決定者による配分選好

表 5 は意思決定者を夫、妻、夫婦という 3 つのグループに分け、農産品値上げ収入、宝くじ当選収入、出稼ぎ収入のそれぞれの収入に対して、意思決定者によって配分選好が異なっているかどうかの検定結果である。農産品値上げ収入と宝くじ当選収入に対して、意思決定者による配分選好が統計的に有意ではない、つまり配分選好が同じであることを棄却できない。出稼ぎ収入に対して、配分選好が統計水準で有意に異なる。

表 5：意思決定者によって配分選好の検定結果

	χ^2	P 値
農産品値上げ	4.5255	0.9205
宝くじ当選	7.0479	0.7209
出稼ぎ収入	21.2239	0.0196*

* 5%水準で有意

意思決定者による出稼ぎ収入の配分選好の違いを明らかにするために、意思決定者を夫と妻、夫と夫婦、妻と夫婦という 3 つのグループに分けて、クロス表の検定を用い、再検証する。表 6 によれば、出稼ぎ収入に対して、夫と妻が単独で意思決定を下す時、また、妻が単独で意思決定をする時と夫婦共同である時の配分選好は同じである。しかしながら、夫が単独で意思決定をする時と夫婦共同でこれをする時の配分選好は異なっている。

表 6：出稼ぎ収入の配分選好の検定結果

	χ^2	P 値
夫と妻	8.2067	0.1452
夫と夫婦	14.9445	0.0106*
妻と夫婦	9.7174	0.0836

* 5%水準で有意

次に、その違いを実際的な統計データから見てみる。表 7 は意思決定者による出稼ぎ収入に対する配分選好の比率を表している。表 7 からみると、夫が単独意思決定を行う時と夫婦共同で意思決定をする時、一番異なっているのは預貯金比率である。夫の出稼ぎ収入を預貯金に用いる選択は 26.42%であり、妻が預貯金を選択した人 38.3%で、夫婦共同で意思決定を下す時、預貯金を選択した人が 40.44%になっている。また、夫婦共同で意思決定を下すなら、他人に貸出するという配分方法の選好比率は大幅に下げている。

表 7：意思決定者による出稼ぎ収入の配分 (%)

	預貯金	交際費	貸出	旅行、贅沢品	生活の改善	日常生活
夫	26.42%	2.59%	13.99%	2.07%	10.88%	44.04%
妻	38.30%	3.55%	15.60%	0.71%	9.93%	31.91%
夫婦	40.77%	3.08%	6.15%	3.08%	16.15%	30.77%

3.2 子供の数による配分選好

子供の数に関して、調査は子供がいない、1人、2人、3人、3人以上という4つの選択肢を設定した。3人以上の子供を持っている世帯のサンプル数は9個しかないので、検証結果の精密性を考慮し子供を3人以上持っている世帯を外れた。表8は検証の結果をまとめている。農産品値上げ、宝くじ当選、出稼ぎ収入という3の収入において、収入の配分選好がすべて統計的に異なることは確認できなかった。つまり、巴林右旗の農家では子供の数は農家の収入の配分選好への影響はあまりない。

表8：子供の数によって配分選好の検定結果

	χ^2	P 値
農産品値上げ	14.1321	0.5155
宝くじ当選	22.5760	0.0936
出稼ぎ	9.0586	0.8744

3.3 親との同居状態による配分選好

表9は農産品値上げ、宝くじ当選及び出稼ぎ収入のそれぞれの収入に対して、親との同居状態の有無から見た配分選好の検定結果である。農産品値上げと宝くじ当選の収入は配分選好が異なることが見られたが、出稼ぎ収入は配分選好が異なることは統計水準で有意ではない、つまり出稼ぎ収入は親との同居状態にあまり影響されていない。

表9：親との同居状態によって配分選好の検定結果

	χ^2	P 値
農産品値上げ	17.4984	0.0036*
宝くじ当選	14.2849	0.0139*
出稼ぎ	3.1685	0.6740

* 5%水準で有意

表10は親との同居状態による農産品値上げと宝くじ当選の収入の配分選好の比率を表している。

農産品値上げの収入に対して、親と同居している世帯は親と同居していない世帯と比較すれば、預貯金の配分選好比率の差が17.02%(40.12%－57.14%)低く、一方、貸出と生活の改善への配分選好比率の差は、それぞれ7.09%(11.38%－4.29%)、6.42%(18.56%－12.14%)高くなっている。

宝くじ当選の収入に対して、親と同居している世帯は親と同居していない世帯と比較すれば、同居している世帯は貯金の配分選好比率が高く、生活改善の配分選好比率が少なくなっている。農産品値上げ収入と全く逆の傾向が見られた。

表 10：親との同居状態によって収入配分の結果

		預貯金	交際費	貸出	旅行・贅沢品	生活の改善	日常生活
農産品値 上げ	同居して いない	57.14%	2.86%	4.29%	1.79%	12.14%	21.79%
	同居して いる	40.12%	3.59%	11.38%	2.99%	18.56%	23.35%
宝くじ 当選	同居して いない	7.50%	23.93%	11.43%	9.64%	32.14%	15.36%
	同居して いる	15.57%	29.94%	9.58%	10.78%	19.76%	14.37%

3.4 世帯年平均収入による配分選好

表 11 は世帯年平均収入は配分選好に影響を与えるかどうかを検証した結果である。平均年収を 5,000 元以下、5,000－10,000 元、10,000－20,000 元、20,000－30,000 元、30,000－40,000 元、40,000 以上という 6 つのグループに分けて検証した。その結果は、農産品値上げ収入と宝くじ収入の配分選好の違いは統計的に有意ではなかった。出稼ぎ収入の配分選好は有意に異なっている。

表 11：収入による配分選好の検定結果

	χ^2	P 値
農産品値上げ	29.1956	0.2558
宝くじ当選	31.4352	0.1750
出稼ぎ	69.9863	0.0000*

* 5%水準で有意

次に、出稼ぎ収入の配分比率から世帯の年平均収入による配分選好がどのように異なっているかどうかをみて行こう。表 12 は世帯の年平均収入による出稼ぎ収入の配分結果である。表 12 から 10,000－20,000 元の収入がある世帯が他の世帯との配分方法は明らかに異なっていることは分かる。他の 5 つのグループと比べて、10,000－20,000 元の収入がある世帯は、預貯金と貸出に用いる比率は 70%以上超え、日常生活と生活改善に用いる比率は 6%未満、きわめて低い、という 2 つ特徴を持っている。これは世帯の年平均収入による出稼ぎ収入の配分選好が異なる一番大きな理由と考えられる。

表 12：世帯の年平均収入による出稼ぎ収入の配分結果

	預貯金	交際費	貸出	旅行・贅沢品	生活の改善	日常生活
5,000 元以下	41.35%	1.92%	9.62%	3.85%	7.69%	35.58%
5,000-10,000	36.91%	4.03%	13.42%	1.34%	15.44%	28.86%
10,000-20,000	50.00%	8.93%	21.43%	14.29%	3.57%	1.79%
20,000-30,000	38.00%	0.00%	16.00%	0.00%	6.00%	40.00%
30,000-40,000	25.00%	0.00%	10.00%	0.00%	10.00%	55.00%
40,000 元以上	38.46%	0.00%	7.69%	0.00%	15.38%	38.46%

ここでは、10,000-20,000 元の年平均収入の農家を除けば、2,000 元の出稼ぎ収入に対して他の 5 つのグループの配分選好が同じであるのかという問題は生じてくる。この問題を解決するために、クロス表の検定方法を用い、他の 5 つのグループの配分選好が異なっているかどうかを検証した。その結果は p 値が 0.44 となっており、配分選好が異なるという結論に至らなかった。つまり、10,000-20,000 元の年平均収入の農家を除けば、収入が多い世帯と収入が少ない世帯の間には 2,000 元の出稼ぎ収入に対する配分選好は同じである。この結果から、年平均収入は出稼ぎ収入の配分選好に明確な影響を与えることを断言できない。

3.5 学歴による配分選好

表 13 はクロス表の検定方法を用い学歴が異なると、同じ収入に対して農家の配分選好が異なっているかどうかを検証した結果である。3 つの収入に対して、p 値はすべて有意水準の 0.05 を超えている。つまり、配分選好が同じであることは棄却できない。

表 13：学歴による配分選好の検定結果

	χ^2	P 値
農産品値上げ	19.88	0.47
宝くじ当選	29.79	0.07
出稼ぎ	21.50	0.37

第4節 まとめ

中国の農家にはメンタル・アカウンティングが存在しているかどうかを検証するために、中国の内モンゴル自治区東部にある巴林右旗という地域の農家を対象として調査を行った。異なる収入に対して配分方法が異なるかどうかを焦点として取り上げた。『農産品値上げ、出稼ぎ、宝くじ当選という3つの異なる収入源から得た2,000元の収入に対し、預貯金、日常生活、生活の改善、貸出、交際費、旅行・贅沢品の6つから最も用いたい配分方法を選びなさい。』という回答の結果をクロス表検定と比率の差の検定を用いて検証した。その結果は3つの異なる収入に対して以下の配分選好の順位は統計的に有意であった。

- ① 農産品値上げ収入に対し、配分選好の順位は預貯金、日常生活、生活の改善、貸出、交際費、旅行・贅沢品である。
- ② 宝くじ当選収入に対し、配分選好の順位は生活の改善、交際費、日常生活、貸出、預貯金、旅行・贅沢品である。
- ③ 出稼ぎ収入に対し、配分選好の順位は日常生活、預貯金、貸出、生活の改善、交際費、旅行・贅沢品である。

さらに、それぞれの配分方法に対し、農産品値上げ、宝くじ当選、出稼ぎ収入の3つの収入から2つずつ組み合わせて3つのグループを作り、それぞれのグループで配分方法毎に配分選好が異なっているかどうかを検証した。その結果は以下の通りであった。

- ① 農産品値上げと出稼ぎという2つの収入源に対して、預貯金、貸出、日常生活に用いるという3つの配分方法の選好比率は統計的に有意であった。
- ② 農産品値上げ収入と宝くじ当選収入に対する配分選好と、出稼ぎ収入と宝くじ当選収入に対する配分選好は同じ結果となった。すなわち、預貯金、交際費、旅行・贅沢品、生活の改善、日常生活という5つの配分方法の選好比率が統計的に有意に異なった。

以上の結果から、農家は異なる収入源によってお金を使い分けていることがわかった。つまり、メンタル・アカウンティングが存在していることを確認できた。

また、同じ収入に対して、意思決定者、子供の数、親と同居の状態、年平均収入及び学歴が農家の配分選好に影響しているかどうかを検証した。結果は以下の通りである。

- ① 子供の数と学歴は収入の配分選好に明確な影響を与えていない。
- ② 意思決定者世帯の年平均収入によって、出稼ぎ収入の配分は異なる傾向が見られたが、10,000－20,000の年収がある世帯を除いたら、年収によって分かれた他の5つのグループの配分選好が同じであった。世帯の年平均収入は収入の配分選好に確かな影響を与えることが断言できない。
- ③ 親との同居状態によって、農産品値上げと宝くじ当選の収入の配分選好が異なる結果も見られた。つまり、親との同居状態は収入の配分選好に影響を与えている。

参考文献

1. Arkes, H. R and C. A. Joyner and M. V. Pezzo and J. G. Nash and K. Siegel-Jacobs, and E. Stone (1994) “The Psychology of Windfall Gains”, *Organizational Behavioral and Human Decision Processes*, Vol.59, pp.331–347.
2. Graham, F. and A. G. Isaac (2002) “The Behavioral Life-Cycle Theory of Consumer Behavior : Survey Evidence” , *Journal of Economic Behavior and Organization*, Vol.48 , pp.391–401 .
3. Sharon K. H and C. H. Mason (1995) “Work versus windfall: An exploration of saving on subsequent purchase” , *Marketing Letters* , Vol.6, pp.91–100.
4. Thaler, R (1985) “Mental Accounting and Consumer Choice ” , *Marketing Science* , Vol.4, pp.199–214.
5. 李 愛梅 (2005) 「心理账户与非理性经济决策行为的实证研究」(メンタル・アカウンティングと非合理的経済選択行動に関する研究) , 暨南大学博士学位論文。
6. 巴林右旗年鑑(2005) <http://nmfanxia.299home.com/> (巴林右旗統計局のホームページ)
7. 中国統計年鑑(2005) <http://www.stats.gov.cn/tjsj/ndsj/2005/indexch.htm> (中華人民共和國統計局のホームページ)。